

チャロー！インド：インド美術の新時代

2008年11月22日〔土〕—2009年3月15日〔日〕 森美術館（六本木ヒルズ森タワー 53 階）

森美術館は、2008年11月22日（土）から2009年3月15日（日）まで、森美術館開館5周年記念展「チャロー！インド：インド美術の新時代」を開催いたします。本展は、デリー、ムンバイ、バンガロール、ヴァドーダラといった都市を拠点に活躍する27組のアーティストによる絵画、彫刻、写真、インスタレーションなど多岐にわたる作品を通して、国際的に大きな注目を集めているインド現代美術の「今」を探ります。

ヒンディー語で「行こう」を表す言葉「チャロー」が示す通り、「チャロー！インド（行こうよ！インドへ）」展は、インド現代美術の新たな創造性と活力に出会う旅であり、また現代インドについて考察しその未来に思いをはせる旅ともいえるでしょう。

インドの現代美術は、1947年の独立の後、欧米から移入された近代的な美術と、自国独自の文化にもとづいた表現の探求が強く見受けられましたが、徐々に、美術における性差の問題や、より政治的・社会的な批判精神を体現した現代的な作品も生まれてくるようになりました。そして、90年代以降は、急激な経済発展とグローバル化、さらには都市化や変容するライフスタイルを反映した新しいタイプの作品が登場し、美術市場の拡大もあいまって、非常に活発で多様なアートシーンが展開されています。

本展では、身近な日常から様々な題材をとり、「生」を舞台化するかのよう、自分たちの住む社会の現実や時代を問おうとする方向性に光をあてます。会場には、本展のために特別に制作された新作や近作を中心に、ポップで色彩豊かな都市感覚に溢れた絵画作品や、観客に参加を促すインタラクティブなメディア・アート作品、現代インドに関する様々なデータやアーカイブを用いた「思考する建築」とでもいえるような作品など、100点以上の多彩な表現の作品が一挙に集められます。「プロローグ：さまざまな旅へ」、「創造と破壊：都市の風景」、「反射：両極の間で」、「豊穡なカオス」、「エピローグ：個と集団／記憶と未来」と題した5つのセクションを通り抜けることで、人々は作品の多様性を体感するとともに、その背景に浮き彫りにされるインド現代社会の抱えるさまざまな矛盾や問題、また彼らの抱く夢や希望を垣間見ることでしょう。

日本で開催されるインドの現代美術展のなかで過去最大級の規模となる本展は、これまであまり知られていなかったインドの前衛的な芸術表現に触れるまたとない機会となります。悠久の歴史や神々と信仰、歌って踊るボリウッド映画、目覚めた経済大国といった言葉だけでは語り尽くせないインドの今—その実像と新たな魅力、エネルギーに迫るべく、「チャロー！インド」。



プシュパマラ・N 《ラクシュミー（「先住民の類型」より）》
2000-04年 C プリント、メタリック紙 61x50.8cm
Courtesy: Nature Morte, New Delhi and Bose Pacia, New York
Photo: Clare Arni

主催：森美術館、読売新聞東京本社
後援：インド大使館、財団法人日印協会
協賛：鹿島建設株式会社、ソニー株式会社、凸版印刷株式会社、
トヨタ自動車株式会社、株式会社新生銀行、三井物産株式会社、
Nucleus Software Exports Ltd、ダイキン工業株式会社、
株式会社エイチシーエル・ジャパン、マインドツリー・リミテッド、
Oracle Financial Services Software Limited、UTI Mutual Fund、
ウィプロ・リミテッド
協力：日本航空、ニコラ・フィアット、ボンベイ・サファイア、インドセンター
本展キュレーター：三木あき子（森美術館 ゲスト・キュレーター）

会場：森美術館 東京都港区六本木 6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 53 階
開館時間：10:00—22:00 | 火 10:00—17:00 |
12/23（火）、12/30（火）は 22:00 まで
いずれも入館は閉館時間の 30 分前まで 会期中無休
入館料：一般 1,500 円、学生（高校・大学生）1,000 円、子供（4 歳以上—中学生）500 円
*表示料金に消費税込 *本展のチケットで展望台 東京シティビューにも入館可
前売りチケット：一般 1,200 円、学生（高校・大学生）900 円、子供（4 歳以上—中学生）500 円 * チケットぴあ（P コード：688-304）にて、10 月 1 日（木）10:00 より
ご購入いただけます。
お問い合わせ：TEL: 03-5777-8600（ハローダイヤル）

お問い合わせ 広報部 担当：渡邊、田村 Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Website: www.mori.art.museum

PRESS RELEASE
プレスリリース

MORI ART MUSEUM

MORI ARTS CENTER

<出品作家> 27 組 * 姓の 50 音順 * (出生年、活動拠点)

ヘマ・ウパディヤイ	(1972 年、ムンバイ)	ジジ・スカリア	(1973 年、デリー)
A・バラスブラマニム	(1971 年、バンガロール)	キラン・スッパイア	(1971 年、バンガロール)
ブシュパマラ・N	(1956 年、バンガロール)	ヴィヴァン・スンドラム	(1943 年、デリー)
N・S・ハルシヤ	(1969 年、マイソール)	クリシュナラージ・チョナト	(1973 年、バンガロール)
ジティッシュ・カッタト	(1974 年、ムンバイ)	ニキル・チョブラ	(1974 年、ムンバイ)
リーナ・サイニ・カッタト	(1973 年、ムンバイ)	トックラール&タグラ	(1976 / 1979 年、デリー)
ランビール・カレカ	(1953 年、デリー)	アトゥール・ドディア	(1959 年、ムンバイ)
シルバ・グプタ	(1976 年、ムンバイ)	サルナート・バナルジー	(1972 年、デリー)
スボード・グプタ	(1964 年、デリー)	ジャガンナート・パンダ	(1970 年、デリー)
パールティ・ケール	(1969 年、デリー)	アシム・フルカヤスタ	(1967 年、デリー)
グラームモハンマド・シェイク	(1937 年、ヴァドーダラ)	ジャスティン・ボンマニ	(1974 年、ムンバイ)
ナタラージ・シャルマ	(1958 年、ヴァドーダラ)	ブラバヴァティ・メッパイル	(1965 年、バンガロール)
トゥシャール・ジョーグ	(1966 年、ムンバイ)	ラクス・メディア・コレクティブ	(1992 年、デリー)*
アナント・ジョシ	(1969 年、ムンバイ)		*1992 年に 3 名のメンバーにより設立

<参考図版>



アトゥール・ドディア
《チャルー (サプタパディ：結婚の光景 (それでも) より)》
2004-06 年 エナメルプリント、合成ニス、ラミネート
c. 183x123cm Courtesy: Vadehra Art Gallery, New Delhi



ヘマ・ウパディヤイ
《ナンバーワン・ガール》2001 年
アクリル、グワッシュ、パステル、写真、紙
121.9 x 91.4cm Collection: Ms. Sree Goswami



ジャガンナート・パンダ 《存在》
2008 年 カンヴァスにアクリル、布、糞 213 x 304cm
Courtesy: Gallery Morte, New Delhi



スボード・グプタ 《弾丸》
2007 年 真鍮、クロム c.106.7 x 70 x 211cm



シルバ・グプタ 《無題》
2007 年 インタラクティブ・ビデオ・インスタレーション



アナント・ジョシ 《中心、そしてその他大勢》
2007 年 マルチメディア・インスタレーション
Courtesy: Chemould Prescott Road, Mumbai



グラームモハンマド・シェイク 《カヴァード：旅する聖堂 (家)》
2008 年 木、アクリル、油彩、グワッシュ、ラミネート、真鍮、
デジタルプリント、照明 サイズ可変
展示風景：マハラジャ・サヤジラオ (MS) 大学美術学部展示ホール、
ヴァドーダラ



パールティ・ケール 《その皮膚は己の言語ではない言葉を読む》
2006 年 ビンディ、ファイバーグラス
167.6 x 152.4 x 457.2cm
©Bartholomew/Netphotograph.com



トックラール&タグラ 《ファントム IX-B》
2007 年 カンヴァスに油彩、アクリル
182x367cm Courtesy: Nature Morte, New Delhi

PRESS RELEASE
プレスリリース

パブリックプログラム

セッション「21世紀のインド、変容の過程で」

※日英・手話同時通訳付

1990年代以降、急激な経済発展とグローバル化を迎えたインド。IT関連などの産業の成長とともに、都市も大きくその姿を変えつつあります。本セッションでは、リサーチデータやネットワークを駆使して現代社会に鋭い視線を投げかけるラクス・メディア・コレクティブを迎えて、変容するインドの現在と来るべき未来について語り合います。

出演：ラクス・メディア・コレクティブ（アーティスト）、南條史生（森美術館館長）、三木あき子（本展ゲスト・キュレーター）、その他
 日時：2008年11月24日（月・休） 14：00-16：00
 会場：アカデミーヒルズ 49 タワーホール（森タワー 49 階）
 主催：森美術館、アカデミーヒルズ
 定員：300名（要予約）
 料金：一般 1,000円 学生・MAMC メンバー 500円

アーティストトーク ※日英同時通訳付

現代インド美術評論の第一人者であるギーター・カプール氏を迎えてのイントロダクションに続き、出品アーティストが自作について語ります。

出演：ギーター・カプール（美術評論家、インディペンデント・キュレーター）、N・S・ハルシャ（アーティスト）、シルバ・グプタ（アーティスト）、トゥシャル・ジョアグ（アーティスト）
 日時：11月22日（土）14：00-16：00
 会場：森美術館展示室内
 定員：80名（要予約）
 料金：無料（要展覧会チケット）

ギャラリートーク ※日本語のみ

■キュレーターによるギャラリートーク

本展キュレーターが、それぞれの作品について会場内で語ります。

日時：11月26日（水） 19：00-20：00
 ガイド：三木あき子（本展ゲスト・キュレーター）
 会場：森美術館展示室内（展覧会入口にお集まりください）
 定員：30名（当日先着順、予約不要）
 料金：無料（要展覧会チケット）

■サポートスタッフによるギャラリートーク

森美術館サポートスタッフによるツアーです。
 展覧会会場と一緒に回りながら作品を鑑賞します。

日時：12月24日（水）より3月14日（土）までの
 毎週水曜日 19：00-20：00、土曜日 14：00-15：00
 ※ただし12月31日（水）、1月3日（土）を除く
 会場：森美術館展示室内（展覧会入口にお集まりください）
 定員：各回15名（当日先着順、予約不要）
 料金：無料（要展覧会チケット）

お申し込み：www.mori.art.museum 予約開始日：2008年10月21日（火）12：00～

※上記ほかファミリープログラム、アクセスプログラム、学校プログラムなどを予定しています。詳しくはお問い合わせください。

お問い合わせ：森美術館学芸部 パブリックプログラム Tel: 03-6406-6101 Fax: 03-6406-9351 E-mail: ppevent@mori.art.museum

取材に関するお問い合わせ 広報部 担当：渡邊、田村 Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum
 Web: www.mori.art.museum 106-6150 東京都港区六本木 6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

レクチャーシリーズ「インドを知る」

■第1回「現代インドのくらしと社会—都市の風景から見えるもの—」

※日英・手話同時通訳付

1991年の市場開放以降、現代インドの都市社会は大きな変貌を遂げています。その過程で、人々のライフスタイルも大きく変化し、新たな社会問題も起きています。豊かさと共に深刻な苦悩を抱えつつあるインドの今を、現地の写真を紹介しながら読み解きます。

日時：12月15日（月）19：00-21：00
 出演：中島岳志（北海道大学大学院法学研究科准教授）、
 矢萩多聞（画家、装丁家）
 会場：アカデミーヒルズ（森タワー）
 主催：森美術館、アカデミーヒルズ
 定員：150名（要予約）
 料金：一般 1,000円 学生・MAMC メンバー 500円

■第2回

「ドゥーム！インディアークールに沸騰する当世インドの味わい方—」

※日英・手話同時通訳付

IT、株、超低価格車、バイオテクノロジーなどのインドの新しい顔と共に、宗教、哲学、伝統的な生活様式が共存するインドの姿は人々を魅了してきました。現在、その「インドらしいインド」が逆輸入され、クールで新しい価値を生み出しています。映画、文学、精神世界、そして現代アートに至るまで、旬なインドの社会や文化の味わい方を紹介します。“チャロー！ドゥーム・インディア（イケてるインドに行こう！）”

日時：2009年1月23日（金）19：00-21：00
 出演：関口真理（亜細亜大学非常勤講師・現代インド研究、会報誌『インド通信』編集者）
 会場：アカデミーヒルズ（森タワー）
 主催：森美術館、アカデミーヒルズ
 定員：150名（要予約）
 料金：一般 1,000円 学生・MAMC メンバー 500円

■第3回「アーティストが見たインド（仮称）」

※日英同時通訳付

日本、ベルリン、ギリシャなど世界各地を移動しながら、映像作品を中心に制作を続ける小金沢健人。2007年、現地に滞在し制作した作品などを紹介しながら、インドでの体験について語ります。

日時：2009年1月27日（火）19：00-21：00
 出演：小金沢健人（アーティスト）、その他
 会場：森美術館展示室内
 定員：100名（要予約）
 料金：500円（要展覧会チケット）

PRESS RELEASE プレスリリース

MORI ART MUSEUM

MORI ARTS CENTER